

平和新聞

北海道版 380号

2013年12月15日

発行 日本平和委員会

1950年12月16日第3種郵便物認可

編集 北海道平和委員会

札幌市北区北6条西6丁目 第3山崎ビル 電話 Fax011 (737) 7637 番 Fax011 (737) 7711 番

2013年 日本平和大会 in 岩国 に参加しました

初めて参加して — 平和があつてこそ

帯広・片岡知子

11月15日 オプショナル基地調査 13:00~16:00 に参加する。

＝岩国基地の歴史＝1937年旧海軍により宅地13,200㎡及び耕地1,217,700㎡接収・終戦時4,514,400㎡、終戦直後は米海兵隊が占拠…(略)1954年海上自衛隊が配備され、共同使用に…(略)・2008年の市長選では政府・与党・地元の基地依存勢力が擁立した福田良彦市長は、米軍再編に対して「基本的に理解し協力する」という立場をとった。今、日米政府は岩国基地を増強しようとしている。一つは米空母艦載機、59機の厚木基地(神奈川県)からの移駐。もう一つは沖縄の普天間基地からの空中給油機12機の移転も計画(米軍再編合意)これが強行されれば、岩国基地に現在配備されている戦闘攻撃機などと合わせて、ほぼ倍の120機もの米軍機が配備されるまさに極東最大の航空機基地になってしまう。

基地ツアーの説明で聞いたこと・小学校の窓が二重窓になっていて前々からエアコンが完備されている。・昔は近隣との付き合いや基地のおかげだという考え方も多かったが、公共事業にこれ以上頼らなくてもやっていけるし、基地に頼って生活している人は減って特にUターンなどで戻ってきた人たちの中には基地は不要という考えの人が多くなってきている。・思いやり予算24億円で44件の米軍住宅など米軍に対する待遇がすごい。・新たに米軍基地にされようとしている愛宕山を守る戦いが行われている。

平和大会開会集会 18:30~20:30 会場:岩国市民会館・大ホール

オープニング広島のうたごえ協議会平和の歌を歌う。フィリピン、韓国からの海外代表のあいさつ。高知県、沖縄、京都、横須賀など各地からの平和行動の報告がありステージに人がいっぱい!!

平和という歌をみんなで合唱、和やかな雰囲気につつまれる。

平和(日本),フリーデン(ドイツ語),ラ・ペ(フランス語),パーチェ(イタリア語),サラーム(アラビア語),ピョンファ(ハンガル語),アマニ(スワヒリ語),シャンティ(ヒンディー語),ハウピン(中国語),ピース(英語),シャローム(ヘブライ語),パス(スペイン語),ミール(ロシア語)

11月16日 (2日目) シンポジウム:憲法九条でどんな日本とアジアが作れるか=シンポジスト:伊波洋一(元宜野湾市長)、内山新吾(弁護士)、川田忠明(日本平和委員会常任理事)、パク・チョンウン(韓国)

世界の動き・アメリカ軍事費を減らしてきている。それを他国に(日本などに)頼りたい思惑。・中国必ずこれから影響力が大きくなる国であり、中国との関係をよくしておくことはとても大事。・ベトナムは特定の国と仲良くしたり、特定の国に立ち向かったりしない立ち回りがうまいから緊張状態にはならない。フィリピンと中国も領土問題はあるが日本のような緊張状態にならない。・近年のアセアン諸国は平和のためのルール作りや行動のルールを決めているから緊張が高まっても立ち戻ることができる。

韓国では日本に憲法9条があることを知らない人が多いと聞いた。ということは他の国にも知らない人はたくさんいることを認識してショックに感じた。今までの時代よりこれからの未来の世界にどんなじんでいく憲法内容だと思う。もっと日本の自慢の憲法を世界に広めていきたいと思った。

弁護士の先生が、自分は仕事上勝ち負けをつける仕事だけれど、本当は勝ち負けでなくって解決することが大事なんだと感じる一と、いわれた言葉が印象的だった。軍事力は勝ち負けをつけることはできるけど、解決することはできないし、軍事力が強いのと正しいのとは論点がずれている。話し合いのほうが全然現実的な方法だと思った。普段憲法9条は理想を並べた非現実のものといわれるけれど、日本の都道府県の間でもめ事が起こったとしても話し合いで解決していることを考えたら国単位でのめ事だって話し合いで解決できないはずがないと思う。「第二章戦争の放棄1、日本国民は、正義と秩序を基調とする国際平和を誠実に希求し、国権の発動たる戦争と、武力による威嚇又は行使は国際紛争を解決する手段としては永久にこれを放棄する。2、前項の目的を達成するために、陸海空軍その他の戦力は、これを保持しない。国の交戦権はこれを認めない」憲法9条の良さを再認識して好きになった。私がであう外国の人にはできるだけ憲法9条の事を話そうと思った。

18時半から若者のイベントとしてピースシャウトがひらかれた。

平和大会で回りを見わたすと、同じくらいの年と思われる人が少なかったからそんなにたくさん集まらないのではないかと不安だったけれど会場につくと50人以上若い人たちがいて驚いた。岩国の小学校の先生の話や沖縄の基地座り込みの話をきいた。基地を日本からなくしたい、九条を守り世界に広めていきたいと思った。みんなの日々の頑張りの話を聞き心強く思う一方、グループトークでは普段忙しくて周りの若い人とこのような話ができないだとか、友達には自分の考えを言いづらいというような話になった。訴え方を考えていかないといけな

いと強く感じたとともに、新聞やチラシに書かれている誰かの言葉で訴えるのではなく、自分で思った自然な感覚で自分の意見に自信をもって伝えたいと感じた。そういう風に伝えていきたい。平和につながる良い考えがマイナーの意見として世の中で扱われるのは悔しすぎるから、その意見が強く光るようにしていかなければいけないなあと思った。

若い人とみんなワイワイ話すだけでとっても楽しくてホントに来てよかったと思えた。友達もたくさんできた。

11月17日（3日目）閉会式の初めに、高橋夫妻の“花いかだ”。矢臼別での演習中に農場に着弾した本当にあった話をモチーフに、お面を使った芝居がおこなわれた。北海道の発表ということで垂れ幕持ちをした。矢臼別の基地の事あまりよく知っていなかった。来年の8月に開かれる盆おどりに参加しようと思った。すごく素敵なお芝居と評判がよかった。閉会式でも各地のアピールが行われ、その後「秘密保護法反対」とみんなでコールをしたあとピースウォークを行った。

みんなと一緒に平和な世界中を目指したいなあと思った。平和があってこそ、それ以外の事が存在するのだなあと感じた

「憲法をいかし、平和なアジア」

道平・石田明義

開催集会、市民会館いっぱい1000名程。沖縄、神奈川、岩国など代表団が米軍の訓練、基地建設、オスプレイ飛行などの闘いを報告、各地からのぼり旗や横断幕などが多数、鮮やかに壇上に広がりました。

安倍政権の危険な姿勢などを基調報告する千坂事務局長。緊急課題の秘密保護法については尾道の井上正信（弁護士）の報告があり、廃案に向け全国での取り組みを訴えました。沖縄の闘いでは新基地建設への政府の圧力や画策、新年1月に名護市長選挙で現市長の稲嶺市長の再選への応援が訴えられました。

闘士であった大西照男さんの生前の映像も流れ、故人を偲びました。

2日目の分科会は各参加者がそれぞれの分科会に向かいました。

閉会集会のオープニングは、矢臼別での闘いから生まれた「花いかだ（高橋夫婦）」の「海兵隊誤射事件の巻」。多数のお面を巧みに交換しながら演じ、会場から拍手や掛け声も混じり、事件の顛末をユーモラスたっぷりと演じ、50年記念の矢臼別平和踊りへの参加も訴え、閉会集会を大きく盛り上げました。

初日のシンポや岩国基地調査にも参加し、岩国米軍基地の拡張された基地や基地内の新空港開設なども視察。調査中にも多種の米軍機の飛行や訓練を目撃。

4年前に米軍用住宅地予定地の山あいを削った土をベルトコンベアで拡張された基地まで移動していました。今は土砂を運び出した場所は閉鎖されており、米軍用住宅の建設が進められています（内部は見えません）。

タクシーの運転手さんや居酒屋の店主に聞くと、沖縄と違い、海兵隊の航空隊なので、“規律がいい”、トラブルは少ないとか、米軍基地内に新しい岩国錦帯橋空港ができて東京との行き来が便利になるなど沖縄とは違った感触を受けました。しかし、住民投票で基地反対の過半数の闘いや政府の岩国市への補助金凍結などの卑劣な攻撃への市民の「怒」などを思い出します。市内各所には平和大会を祝し、市民の協力をえてのぼり旗を300本を立てたとのこと、沿道に目立っていました。帰りの新千歳空港には、日米共同方面隊指揮所演習（ヤマザクラ）へ参加する米兵30名が普段着で降りてくると出くわし、迎えるのは軍服の自衛隊でした。北海道の代表は今年6名（掲載の3名のほか矢臼別：吉野事務局長、花いかだ＝高橋夫妻）という厳しい結果でした。

基地は沖縄や岩国のみならず私たちの足元にも全国区の問題がある。北海道の闘いを強化して行く必要があります。

「日本であって日本でない。米国の植民地！」

室蘭・橋本忠義

1938（昭和13）年 旧日本海軍の航空基地が建設され、戦後米・英軍が進駐し以来75年間『基地の街』とされて来た岩国市。（出典：岩国平和委員会 発行 カラーリーフ ～大会配布資料 引用）

最後の行事 ピースウォーク（平和行進）で通りすがり？のライトバン助手席の色眼鏡の婦人から浴びせられたヘイトスピーチ？『…ちゃっちゃと消えてしまえ（帰れ？）この馬鹿者ども！』何というこきたない言葉だろうか！全く情けなく悲しかった。「こんな風に基地の街の市民は、不断に心までも痛めつけられている」と実感したものです。

同じように『基地の島 沖縄』の平和大会にも参加したが、市民からのこんな歓迎はなかった。むしろ応援！共に一を感じさせる車からのクラクションや、子ども達からの手振りが嬉しかったが、岩国は違った。

11月15日（金）米軍基地調査一到着するや否や、早速の偵察？ヘリが飛来。更には、「帰れ！」とばかりに偵察機も飛来。低空飛行で操縦席の米兵も見えそうなくらい。頭上でUターンし基地に戻って行った。道路上には『米軍基地へは走行車線より入域（？）して下さい（待機車輛追越禁止）誘導員の指示に必ずしたがって下さい（○全対策協議会）一街路灯に頑丈に縛り付けられた大きな立て看板一針金が、赤白のサインポールが白々しく見える。『甲子園出場目指す高校野球一予選は米軍（米兵）住宅内のグラウンドで行なわれる』とガイドの安保破棄の事務局 氏の話に『エーッ！』という車内の参加者の声。まさに「日本であって日本でない。米国の植民地！」そんな風を感じた瞬間でした。平和を守れ！美しい日本（国）を守れ！の声を広げたい。